

2 環境学習

県民一人ひとりが環境に関する諸問題を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要である。当センターでは、環境保全の実践に結びつけるため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。令和2年度の環境学習の取組については、以下のとおりである。

2.1 彩の国環境大学

当センターでは、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。令和2年度も、環境に関する広範囲かつ専門的な知識の習得を目的として基礎課程、実践課程を開講した。

開講期間：8月29日～11月23日 基礎課程・実践課程 各10回 受講者：58名 修了者：51名

開講式公開講座

開催日	講義名	講師名
8月29日	フクシマ由来の放射能を海で計る ー海の中でどこまでひろがり、どこにたまったかー	埼玉県環境科学国際センター 総長 植松光夫

閉講式公開講座

開催日	講義名	講師名
11月23日	宇宙から見た地球環境 ー地球温暖化や大気汚染などの現象を 宇宙から見てみようー	国立研究開発法人 国立環境研究所 衛星観測センター シニアアドバイザー 中島映至



開講式



閉講式公開講座

基礎課程

開催日	講義名	講師名
9月 5日	埼玉県の環境の現状と今後の目指す姿 ー環境保全・創造の取組ー	埼玉県環境部環境政策課 主任 加藤考力
9月 5日	川の国埼玉と里川の再生 ー地域の川と生きものたちを未来へつなぐー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 木持 謙
9月12日	埼玉県における土壌地下水汚染の現状とその対策	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 石山 高
9月12日	歴史から読み解く「ごみと環境」	日本工業大学 元教授 小野雄策

開催日	講義名	講師名
9月19日	国際協力による地球環境保全	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 地球環境部森林・自然環境グループ 鈴木和信
9月19日	埼玉県の温暖化の実態とその影響 ー変わりつつある温暖化対策ー	埼玉県環境科学国際センター 主任 原 政之
9月26日	生物多様性を考える ー今、埼玉県では何が起きているのか？ー	埼玉県環境科学国際センター 主任研究員 米倉哲志
9月26日	化学物質と私たちの暮らし ー健康で環境にやさしい生活をおくるためにー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 大塚宜寿
10月 3日	地球温暖化問題から考える ー私たちの生活と経済ー	大月市立大月短期大学 准教授 佐藤克春
10月 3日	埼玉の大気環境を知る ー光化学スモッグとPM2.5のいまー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 米持真一

実践課程

開催日	講義名	講師名
10月10日	環境学習プログラムをデザインする 環境学習プログラムをデザインする(演習)	学びの広場 代表 小川達己
10月17日	生物多様性とは何か 自然のしくみを知る(実地演習)	埼玉県自然学習センター 自然学習指導員チーフ 高野 徹
10月24日	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげひろげるコーディネーターの役割	NPO法人 エコ・コミュニケーションセンター 代表 森 良
10月31日	事例研究 危機感が生んだ都市住民を取り込む活動手法について	NPO法人 宮代水と緑のネットワーク 代表理事 茂木俊二
10月31日	カードゲーム「2030SDGs」体験	埼玉県環境部水環境課 主査 伊原洋輔
11月 7日	「持続可能な社会」と環境教育 SDGs(持続可能な開発目標)とSDGs推進のエンジンで あるESD(持続可能な開発のための教育)を学ぶ	立教大学社会学部 教授 ESD研究所長 ESD活動支援センター長 阿部 治

2.2 公開講座

センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ等	参加者
生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	令和2年 8月 2日 11月14日	間伐材で作ろうテッシュBOXケース 見てみよう感じてみよう 秋の生態園・自然観察会	49名 44名
県民実験教室 簡易な科学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。	令和2年 7月19日 7月24日 7月26日 8月 1日 8月 5日 8月 8日 8月10日 9月20日 9月22日 10月25日 11月14日 12月13日	祝CESS20周年記念夏休み特別企画 「ぎゅっとつまったオモンロ体験！」 祝CESS20周年記念夏休み特別企画 「きいてみよう鳴らしてみよう～音と振動のひみつ」 祝CESS20周年記念夏休み特別企画 「身の回りの空気の汚れを調べてみよう」 祝CESS20周年記念夏休み特別企画 「電気実験教室」 祝CESS20周年記念夏休み特別企画 「大気汚染を目で見てみよう」 祝CESS20周年記念夏休み特別企画 「体験！雲の上の実験～富士山頂の空気は何が違う？」 祝CESS20周年記念夏休み特別企画 「磁石博士になろう」 県民実験教室 「ミラクルヘリコプターを作ろう」 県民実験教室 「偏光万華鏡を作ろう」 リアル体験教室・県民実験教室 「環境を科学する博士になりたい」 祝CESS20周年記念県民の日特別企画 「電気実験教室」 県民実験教室 「廃油からアロマキャンドルを作ろう」	63名 48名 45名 48名 24名 50名 56名 49名 43名 92名 72名 27名

(14講座、計710名)

2.3 身近な環境観察局ネットワーク

環境に関心がある県内の個人や団体に、簡易な環境調査法の学習・調査報告・情報交換の機会を設けることにより、環境保全活動の推進や観察局同士のネットワーク形成を図っている。

観察局数:101局(令和3年3月31日現在)。

身近な環境観察局では、光化学オキシダントのアサガオへの被害状況と特定外来害虫であるクビアカツヤカミキリの調査を行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から説明会を実施せず、郵送によるアサガオ種の配布を実施した。また、身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会は、「身近な観察局ネットワーク通信」による紙面開催とした。

2.4 研究施設公開

県民の日に研究施設の一般公開を行った。

開催日		内容	参加者
11月14日	県民の日	普段非公開の研究施設を特別に公開し、研究員が解説や実演を行った。	232名

※ゴールデンウィーク及び夏休み期間中の研究施設公開は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止とした。

2.5 その他

夏休み、県民の日に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
夏休み特別企画	7月18日 ～ 8月23日	・知ってるSDGsを教えてください ・この夏やろう環境に良いこと ・さいたま緑のトラスト写真コンクール入賞作品 ・オカリナコンサート ほか	参加者延 2,388名
県民の日特別企画	11月14日	・自然観察会 ・顕微鏡で見てみよう ・研究所公開 ・この冬やろう環境に良いこと ・オカリナコンサート ほか	参加者延 1,927名
上映会	7月26日 ～ 8月23日	・大科学実験 ・ほ乳類はどこからきたのか ・モリゾーとキッコロ ほか	参加者延 328名

(計4,643名)